

令和8年度 豊田小学校 校内教育支援センター・スペシャルサポートルームについて

1. 設置の趣旨

本校における教育相談、特別支援教育、および不登校支援の機能を再編し、包括的な支援を行う「校内教育支援センター」を構築する。

従来の「学習支援（リソースルーム）」と「別室登校（Tルーム）」の機能を統合し、「スペシャルサポートルーム（SSR）」として運用することで、児童の多様なニーズに柔軟に対応できる「安心の居場所」づくりを目指す。

2. 新体制の概要

(1) 組織名称と機能

全体の支援体制を「校内教育支援センター」と位置付ける。

機能	～令和7年度（従来）	令和8年度（新体制）
学習 居場所支援	リソースルーム Tルーム	スペシャルサポートルーム（SSR） ※両機能を合体・統合
教育相談	教育相談室	運用変更なし（継続）

(2) 基本理念と指導方針

「まずは、学校の中に安心できる居場所をつくる」

教室に入りづらい児童の背景は様々ですが、以下のステップで支援を行う。

1. 第一優先：毎日楽しく登校できること（心理的安定・居場所の保障）
2. 個別支援：個々の課題への対応（学習補充・生活指導）

(3) 運営体制・人員配置

【統括】生活指導主任

【コアチーム（運営・調整）】

- ・ 特別支援教育コーディネーター
- ・ 不登校担当教員
- ・ 教育相談担当教員

【実務・指導スタッフ（常駐・直接指導）】 生活および学習のサポート

- リソースルームティーチャー（RRT）
- 学習支援員
- 家庭と子供の支援員

4. 「スペシャルサポートルーム（SSR）」の運用について

(1) 環境設定

異なる目的の児童が同室で過ごすため、環境を工夫する。

- スタディエリア：集中して課題に取り組むスペース（パーティション等の活用）
- コミュニティエリア：読書、休息、交流ができるスペース

(2) 利用対象と手続き

- 不登校・不登校傾向にある児童。
- 利用にあたっては、特別支援教育コーディネーターおよび不登校担当を中心とした校内委員会等で検討・決定。
- 利用する前に、担任・保護者・SSR ティーチャーとで面談を実施し、利用の仕方・利用目的・今後の方針等を共有する。

6. 今後の予定

- 4月2～3週目：担任・保護者・SSR ティーチャーとで面談 《今後の方針や目指すべきことを共有する。SSR にいる他の児童の安全が脅かされるような行動があった際は、一時SSR の利用を止めてもらう旨を伝える。利用再開の際には再び面談を行う。（面談時間は16：30までで設定）》
- **4月4週目 令和8年4月20日（月）：運用開始**

※4月20日（月）の運用開始までは、利用できませんので、ご注意ください。

R8年度スペシャルサポートルーム運営について

時刻	利用児童の流れ
8:30 ～1時間目	入室（それまでは廊下などで待機） ・朝の準備 ・連絡カードに今日の日付と取り組みたいことを記入
5分休み	・学級へ ① 今日の課題を受け取りに行く。 ② 今日取り組みたいことを確認してもらう。
2時間目	・課題に取り組んだり、自分が取り組みたいことをしたりする。
中休み	SSR ティーチャーが、子供たちの様子や実態に合わせて、適宜、イベントなど企画し実施する場合もある。（校庭での遊び・散歩・図書室での読書・工作など）
3時間目	
4時間目	・学級に給食を取りに行く。
給食 昼休み	・休み時間を過ごす。
掃除（月木）	・SSRの掃除をする。
5時間目	・連絡帳に振り返りを記入する。
5時間目終了後	・学級へ ① 担任に連絡帳を提出する。 ② 下校時刻10分前に帰宅可能

※全校朝会には遅れて出てきても構わない。

※早く来た児童は、支援員の勤務開始時刻8時30分までは、廊下で待つ。

※スクールカウンセラーが月1回程度、児童の様子を観察する。保護者が面談を希望した際には、児童の様子をフィードバックする。

連絡カード

年 組 名前

	(月) /	(火) /	(水) /	(木) /	(金) /
今日、できれば取り組んだ方がよい課題					
今日やりたいこと					
ふりかえり	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △
SSRティーチャーのサイン					
担任の先生からのサイン					

